

学会ニュース

目次

・2014年度学会費納入のお願い	1
・第36回大会および第37回大会について	2
【2015年国際18世紀学会ロッテルダム大会 パネル趣旨】		
・日本18世紀学会パネル「18世紀における効用と社交性の東西比較」	長尾伸一 2
・日韓18世紀学会・国際共催パネル「東アジアにおける啓蒙研究の現在 —ルソー、デイドロ、百科全書派をめぐって」	逸見龍生 3
・Fiction and Perception: the Novel and the Theatre as Devices for the Enlightenment	武田将明 3
・Enlightenment and Fiction	齊藤 渉 4
・Saint-Lambert : de l'économie rurale au commerce colonial サン＝ランベール：農村経済から植民地交易へ	井上櫻子 4
・De la culture héroïque à la société du goût : statut des femmes et changement des mœurs 「洗練」か「墮落」か? : 18世紀における「習俗」と女性のステータス	玉田敦子 5
・事務局より	6

2014年度学会費納入のお願い

代表幹事 長尾伸一

学会費未納の会員の方については払い込み用紙を同封いたしましたので、年会費の納入をお願いいたします。年々、会計状況が厳しくなっております。活発な学会活動の維持と発展のため、会員の皆様のご協力をいただきたいと思います。

第36回大会および第37回大会について

今年度の第36回大会は、2014年6月21日（土）、22日（日）に福山市立大学で開かれ、盛会のうちに終了しました。開催校責任者の堀田誠三会員をはじめ、福山市立大学の方々に篤くお礼申し上げます。

共通論題(1)「18世紀の海の道」のコーディネーター高橋博巳会員、共通論題(2)「啓蒙とフィクション」のコーディネーター斉藤渉会員およびほかの発表者の方々、コンサートの出演者の方々にもお礼申し上げます。

来年度の第37回大会は東京大学で開かれる予定です。開催校責任者は大石和欣会員です。

詳細は追ってお知らせします。

【2015年国際18世紀学会ロッテルダム大会 パネル趣旨】

第14回国際18世紀学会大会はオランダのロッテルダムのエラスムス大学で、2015年の7月26日から31日にかけて開かれます。国際18世紀学会（ISECS）は4年に1度、国際大会を開催していますが、来年はその年に当たります。大会の情報、報告申込み、レジストレーションは、随時更新されている大会ホームページ（<http://isecs2015.wordpress.com/>）をご覧ください。またこれに関するご質問等は、事務局あてメールでも受け付けます。

すでにパネル等の申し込みは終了しています。パネルについては、すでに大会HPで暫定プログラムのPDFが公開されており、題名やオーガナイザーの名前から検索可能です。

また個人の報告およびポスターについては、来年1月12日まで受け付けられることになっています。日本18世紀学会としては、会員のみなさんがそれぞれの新鮮な研究の結果を持って参加されることを、ぜひお願いしたいと思います。受付のURLは以下の通りです。

<https://www.etchouches.com/eselect/92827>

大会テーマは開催地にちなんで、「市場を開く—18世紀における貿易と商業」とされていますが、従来通り、必ずしもそれに拘ることなく、それぞれの分野での成果還元と国際交流の場として、十分にご活用ください。

個人報告の他に、本学会では従来から多くの方々が国際大会でパネル、セッション、ラウンドテーブルを企画されてきました。ロッテルダム大会については、学会レベルでは、日韓学会共同企画によるパネルと、日本学会が企画する18世紀の東西比較の2つが企画されています。その他にも有益なパネルが日本学会会員によって組織されています。以下にそれらをご紹介します。

日本18世紀学会パネル「18世紀における効用と社交性の東西比較」

オーガナイザー 長尾伸一（名古屋大学）

次項で紹介されているように、今回の日韓共同企画はフランス啓蒙に絞って、いっそうの両学会の

研究協力を推進します。そのため従来の東アジアとヨーロッパの比較については、日本学会が企画するパネルで行います。

このパネルは従来日韓学会で進めてきた18世紀の東西比較研究を、大会テーマに即して、「効用と社交性」に絞って深めることを目的としています。報告者については、日韓両学会の会員の参加を受け付ける形で組織する予定ですので、報告を希望される会員の方は、まず本学会事務局あてにお知らせください。以下は大会プログラム掲載の趣旨説明です。

本パネルは18世紀ヨーロッパと東アジアの文化的、社会的、科学的発展を比較することを目的としている。とりわけ以下の4点に注目する。

- (1) 両地域の文化、科学、技術、哲学における「効用」の意味と機能
- (2) 両地域における「社交性」の発展の形態とその現実
- (3) 18世紀における社交性の深化と効用の関係
- (4) これらの主題についての両地域の重要な相違点

本パネルでは、文化的、科学的コミュニケーション、レトリックとテイスト、任意団体とネットワークなど、この世紀の両地域における重要な側面を取り上げる。

日韓18世紀学会・国際共催パネル「東アジアにおける啓蒙研究の現在 ——ルソー、デイドロ、百科全書派をめぐって」

オーガナイザー 逸見龍生（新潟大学）

韓国18世紀学会の研究者たちとともに、フランス啓蒙研究に関する日韓の近年の研究成果を共有するパネルを開催する。国際大会のつど、本学会会員がこれまで数度に渡って取り組んできた、東アジアにおける18世紀共同国際研究のひとつとして考えている。LEE Choong Hoon韓国18世紀学会会長（漢陽大学、ルソーとデイドロにおける「発酵」概念）をはじめ、韓国からはLEE Yoong Chul（韓国放送通信大学校、ルソーと女性）、Lee Young Mock（ソウル大学、デイドロ）および博士論文を準備中の2名の学生Huh Ju Young（ソウル大学、フォントネル）、Kim Young Uk（パリ第7大学、ルソー）が参加。日本からは寺田元一会員、王寺賢太会員および私、若手からも飯田賢穂会員、および齋藤山人会員が加わってくれる。フランス啓蒙に限定はされるものの、国境を越えた知見を交換することによって、両国がそれぞれ培ってきた啓蒙の歴史記述の特異性や共約性を知る、新鮮な機会になるのではないか。将来の共同研究の足場となりうる、世代を越えた学術ネットワークを構築するための、ひとつのきっかけとしたいと考えている。

Fiction and Perception: the Novel and the Theatre as Devices for the Enlightenment

オーガナイザー 武田将明（東京大学）

報告者 久保昭博（関西学院大学）、武田将明（東京大学）
大崎さやの（東京大学）、菅 利恵（三重大学）

18世紀を通じて、ヨーロッパでは文学表現においてさまざまな変動が生じた。イングランドにおいては、ダニエル・デフォーが近代小説の歴史を拓き、イタリアでは、カルロ・ゴルドーニの改革劇が人気を博している。ドイツでも、劇作家や批評家が演劇改革を試みた。こうした動きはみな広義での啓蒙に関連している。デフォーは当時の代表的ジャーナリストであるし、演劇改革はしばしば近代的ないし啓蒙的理念を伝える有力な手段と考えられた。

注目すべきは、これらの著者たちが、読者や観客の認識に働きかけ変容させる装置としてフィクションの形式を利用した点である。彼らにとっての〈啓蒙〉それ自身、世界に対する特定の見方を広めるものであり、言い換えれば、イデオロギー的活動であった。この視点は、当事者たちがしばしば戦争や革命など現実の政治的事件に関わっていただけに一層重要である。

本セッションは、フィクションの啓蒙的な機能と啓蒙のフィクショナルな側面をともに解明することを目指す。それによって、フィクションが合理的判断を促進するものか、それとも阻害するものかという古代から議論されてきた問題にも近代文学および演劇の見地から新たな光を当てられるかもしれない。

Enlightenment and Fiction

オーガナイザー 齊藤 渉 (東京大学)
報告者 齊藤 渉 (東京大学)、後藤正英 (佐賀大学)
隠岐さや香 (広島大学)、上村敏郎 (獨協大学)

18世紀はしばしば「啓蒙の世紀」ないし「理性の時代」と見なされた。フィクションが〈真理〉を曇らせ、脅かし、覆うものと見なされるかぎり、理性とフィクションは相矛盾するものと考えられるだろう。ここから、18世紀において、この2つの要素を切り離したり、それぞれの要素を別々の時期・地域・社会階層に関連づける見方が生じうる。つまり、啓蒙の世紀とフィクションの関係は偶然的なものと思なされる。

他方で、別様の見方も成り立つのではないか。近代的文学ジャンルとしての小説の発展と、小説についての理論的考察はもとより、18世紀には、哲学、神学、科学や政治にいたるさまざまな領域での文学外的フィクションが数多く見られる。事実、これらのテキストが、一般的な啓蒙のイメージの重要な要素であることを示しうるだろう。

本セッションでは、こうしたフィクショナルなテキストに着目し、18世紀における啓蒙とフィクションの密接な関係を示すことを目指したい。

Saint-Lambert : de l'économie rurale au commerce colonial

サン＝ランベール：農村経済から植民地交易へ

オーガナイザー 井上櫻子 (慶應義塾大学)
共同オーガナイザー シルヴァン・ムナン (パリ＝ソルボンヌ大学名誉教授)

本セッションでは、ジャン＝フランソワ・ド・サン＝ランベール (1716-1806) の経済思想について

て検討する。サン＝ランベールは、『百科全書』への寄稿者であり、アカデミー・フランセーズ会員であり、グラフィニー夫人、シャトレ夫人、そしてヴォルテールと親交を結んだことで知られる。その主要著作としては、コント集（近代版は1995年および2007年に刊行）や4歌から成る長大な韻文作品『四季』（批評校訂版は2014年に刊行）が挙げられる。フランス文学史におけるサン＝ランベールの功績は、『四季』をもって描写詩という18世紀特有のジャンルを作り上げたことにあると考えられる傾向にある。しかし、この韻文作品のさまざまな詩句および作者自身によって付せられた注記、コント集の背景、さらにサン＝ランベールの筆に成る『百科全書』の項目（「奢侈」など）からは、きわめて豊かで革新的な経済思想が浮き彫りにされることもまた忘れてはならないだろう。つまり、彼はこうした作品の中で、大地主が果たす役割や国際貿易について明確な見解を示しているのである。本セッションでは、これまであまり注目されてこなかったサン＝ランベールの経済思想を歴史・社会的文脈に位置づけることを試みたい。

De la culture héroïque à la société du goût : statut des femmes et changement des mœurs

「洗練」か「墮落」か？：18世紀における「習俗」と女性のステータス

オーガナイザー 玉田敦子（中部大学）

チェア セリーヌ・スペクトール（ボルドー第3大学）

報告者 福田真希（名古屋大学）他

近代社会の成立において「習俗」の概念の変容は大きな役割を果たしてきた。この習俗概念の変容について、ポーコックの『徳・商業・歴史』は18世紀を、古代ギリシアに淵源をもつ「市民的徳（civic virtue）」から、商業社会の基盤となる「近代的」倫理への転換期と位置づけている。

とはいえ、18世紀フランスにおいては、イギリス思想の影響を強く受けたモンテスキューやヴォルテールが、ポーコックが論じるとおり、商業の発展にもとづく習俗の「洗練」に対して好意的であった一方、ルソーはこれを利己主義の拡大による「習俗の墮落」として批判していた。また、『百科全書』の項目「習俗（mœurs）」は、「女性はフランスにおいて習俗を墮落させる原因をなした」としているが、ここには明らかに古代的な「市民的徳」にもとづく「男性的」な「習俗」を優位に置く価値観が現れている。

このセッションにおいては、「習俗」の問題について、18世紀後半のフランスにおいてサロン文化が洗練させていった「女性的」なる「趣味」と、七年戦争以後におけるナショナリズムの台頭と相俟って勢いを強めていくヒロイズムへの偏向について、その対立構造を手がかりに再考する。



事務局より

会費納入のお願い

学会ニュースの発送とあわせて、会費未納の方には、その年数に応じた金額を印字した払い込み用紙を同封させていただいています。学会の活動は皆様の会費によって支えられています。事務局におきましても円滑な学会運営のため身を引き締め変わらず努力する所存ですが、会員の皆様にはどうか苦しい学会の財政事情をご理解いただき会費納入にご協力をお願い致します。

すでにご存じと思いますが、一般の銀行から郵便振替口座への入金もできるようになりました。

なお、口座番号は以下の通りです。事務局移転に伴い、郵便振替口座も変更となりました。今後は以下の振込口座へ会費の納入をお願いいたします。

<郵便口座振替で振り込む場合>

口座記号番号：00800-7-183350 口座名称：日本18世紀学会事務局

<銀行等から振り込みする場合>

銀行名：ゆうちょ銀行 店名：〇八九店（ゼロハチキュウテン）

預金種目：当座預金 口座番号：0183350

『年報』への論文投稿について

すでにご存じと思いますが、数年前から、大会での発表をもとにしたもの以外の論文も投稿できるようになりました。詳しくは『年報』末尾の投稿規程をご覧ください。

国際18世紀学会の名簿について

国際18世紀学会事務局移転に伴い、ホームページの再構築がなされております（日本18世紀学会ホームページのリンクより閲覧できます）。これに伴い現在、国際18世紀学会に登録されている個人情報が見えなくなりました。

なお2015年は国際18世紀学会執行委員の選出年であるため、登録されている学会員名のチェックが各国学会等に要請されております。従いまして、事務局で12月上旬を目処に国際18世紀学会ホームページに掲載されるべき会員リストを提出する予定です。国際18世紀学会ホームページに新たな名簿リストに基づく会員名が登録されたことを確認次第、当学会ホームページ等でお知らせいたします。

※シンポジウム、講演会や出版の告知などのためにも、国際18世紀学会のホームページを活用してください。国際学会に関する情報のほか、シンポジウムなど各種の情報が掲載されています。

投書欄について

この「学会ニュース」に投書をしていただくこともできます。たとえば以下のような内容の投書が可能です。

- ・学会や事務局への意見、提案、希望など。
- ・掲示板：研究会の呼びかけ、行事の広告、情報提供の依頼（たとえば「『〇〇』という本を探しています」など）。会員同士の連絡にご利用ください。

いずれも事務局までお申込み下さい。

なお、以前の「『百科全書』研究会」のように、チラシや案内文書を「学会ニュース」に同封することも可能です。年3回の発行なので緊急の案内には適しませんが、全会員にお届けできます。（経費等の都合上、枚数の少ないものに限りです。）

共通論題のテーマ、および書評対象図書

会員からの提案を随時受け付けています。事務局または担当幹事まで。（ただし、共通論題のテーマ決定に際しては開催校の希望が優先されるので、必ずしもすぐにご提案が実現するとは限りませんが、事務局から開催校や幹事会に伝達します。）

当学会は学際的な学会であるため、会員の研究が広範囲に及び、担当幹事だけでは各分野の重要文献の情報を集めるのが困難です。書評で取り上げるに値すると思われる図書がある場合、事務局までお知らせください。（特にご自分の専門分野が当学会で十分に扱われていないと思われる方は、積極的にご推薦ください。）

学会ニュースのエッセー

今のところ、事務局から執筆をお願いしていますが、会員の皆さんからの希望も受け付けています。執筆を希望される方は事務局までお知らせください。（編集の都合上、12月号は10月半ばまでに、4月号は2月初めまでに、9月号は7月半ば頃までにご希望をお寄せください。）

年会費

日本18世紀学会の年会費は5,000円です。年会費について証明をご希望の方は、『年報』末尾またはホームページの「会則及び役員選出に関する細則」附則の項を印刷してご利用ください。

寄付のお願い

前号以来、以下の方から寄付がありました。お礼申し上げます。

磯山 雅	5口	5,000円、	匿名希望	10口	10,000円、	匿名希望	4口	4,000円
計	19口	19,000円						

また寄付を希望される方は、別紙要領をご覧ください。

新入会員の方へ

毎年6月の幹事会で入会を承認された方はその年度からの会員となります。6月の幹事会以降に入会を申し込まれた方は12月の幹事会で承認され次年度からの会員扱いになりますので、会費の請求はありませんが、他の会員同様に諸種の配布物をお届けいたします。

新会員の勧誘のお願い

ぜひ18世紀研究に関心のある方を本会にご勧誘ください。入会申込用紙は日本18世紀学会ホームページからダウンロードできますので、よろしくごお願いいたします。

メーリングリスト

日本18世紀学会では学会や研究会のお知らせ、ヴォルテール財団からの連絡などをメールによって会員の方々にお知らせしております。ご希望の方は事務局までご連絡をお願いいたします。なお9月より、新しいメーリングリストを稼働しております。これまでメーリングリストより配信されていたにも関わらず最近メールが届かないという方、またご希望にもかかわらず、メールをお受け取りになっていない方はお手数ですが、事務局までご連絡をお願いいたします。また、メールアドレスを変更

された場合もお知らせください。

幹事会メンバー(50音順)：王寺賢太(国際幹事)、大石和欣(常任幹事)、大野誠(常任幹事)、隠岐さや香、小田部胤久(国際学会執行委員)、川島慶子、小関武史(常任幹事、年報担当)、斉藤渉、坂本貴志(常任幹事、年報担当)、武田将明、玉田敦子(常任幹事)、寺田元一(東アジア交流担当)、長尾伸一(代表幹事)、馬場朗、逸見龍生(常任幹事、年報担当)、増田真

会計監査：安室可奈子、真部清孝

日本18世紀学会ニュース 第76号 2014年10月発行
発行者 日本18世紀学会 代表者 長尾伸一
事務局 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院経済学研究科 日本18世紀学会事務局
e-mail: jsecs.nagoya.uni@gmail.com
tel: 052-789-2380
fax: 052-789-4924
<http://www.gakkai.ac/jsecs/>